環境パートナーシップちば
だより
— つながれ ひろがれ —

第１５５号
特定非営利活動法人
環境パートナーシップちば
℡：090-8116-4633
E-mail：info@kanpachiba.com
https://kanpachiba.com/

Think Globally, Act Locally

特定非営利活動法人環境パートナーシップちば
代表理事　桑波田 和子

今年もどうぞよろしくお願いします。

昨年、「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した」のグテーレス国連事務総長の警告は、酷暑を体験したことからも、地球規模の自然環境の変化を実感しました。また新年早々の能登半島地震など、生きている地球上で、生物が暮らしていることの脅威と共に恩恵の両面を思わされました。

世界でおこっていること、身近なところでの課題、取り組めることなどをさらに進める私たちの行動力が試されます。

昨年は県の若者事業を受託し展開して行く中で、若者や応援する団体の思いを知る機会に恵まれました。持続可能な地球（社会）を目指して、あらゆる立場で連携・協働、支援などがますます重要です。併せて、お互いを知る、知り合う場もまだ不十分だとあらためて思いました。

具体的には、６年間展開してきた「SDGs ちば拠点づくり」「SDGs・ESD 人材育成事業」のこれまでの実績を元に、さらに協働の場を強固にして行きたいと思います。

事務局として関わる「エコメッセちば」でも、2024 年度のテーマは「パートナーシップ」（SDGs17 番）です。

あらためて、「Think Globally、Act Locally」お互いの立場を尊敬し、持続可能な社会作りへ、それぞれが持っている力を出し合いましょう。

ご協力、ご支援　よろしくお願いいたします。

新しい年を迎えて

千葉県環境生活部循環型社会推進課長　橋本 欣也

令和６年の新春を迎え、特定非営利活動法人環境パートナーシップちばの皆様におかれましては、ますます御清祥のことと心からお喜び申し上げます。皆様には、日頃から本県の環境行政の推進にお力添えをいただき、厚く御礼申し上げます。

はじめに、元日に発生した令和６年能登半島地震によりお亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表するとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

さて、社会に大きな影響を与えた新型コロナウイルス感染症が、昨年５月に五類感染症に分類されたことを受け、様々な行事等が再開され、各地の環境保全活動も活発に行われつつあることと思います。また、最近の気候変動の影響と考えられる自然災害の発生は、環境問題への社会的関心を高め、より多くの方々が環境保全を意識した活動を始めています。

このような方々の思いを紡ぎ、連携や協働の輪を広げる、「エコメッセちば」をはじめとする皆様の取組は、今後、更に重要になると考えており、県におきましても大変心強く感じているところです。

県では、「千葉県環境学習等行動計画」等に基づき、県民や事業者の皆様による主体的な行動を促すため、今年度新たに「ちばエコスタイルパートナー登録制度」や「若者が主役の環境保全活動応援事業」を展開したところです。これから、より多くの方々に環境問題への理解や関心を深めていただき、豊かな自然を次世代に継承するため積極的に行動していただくには、皆様との協働・連携による取組の推進が欠かせません。県としましても、共に発展できるよう努めてまいりますので、引き続き、御理解と御協力のほど、どうぞよろしくお願いします。

結びに、貴団体の一層の御発展と、会員の皆様の御健勝と御活躍を祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

開催報告

第２回拠点づくり会議

日時：11 月 20 日（月）13：30～15：30
場所：千葉県教育会館　202 会議室　Zoom
出席：会場：15 名　zoom：８名
ファシリテーター：石井雅章氏　神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部　教授
主催：NPO 法人環境パートナーシップちば
内容：
①第１回会議ふりかえりでは、「お互いの活動内容など深掘りできたら良い」「まず動き出すのも必要」などの意見を共有しました。
②夏休みユースボランティア活動報告では、だより 153 号を参照して報告し、特に参加者につながる広報について意見を出し合いました。
・2023 年のユースボランティアの活動は、受け入れ 5 団体・15 プログラム、ユース申込 42 名・ 報告書提出 22 名。
・高校生への募集案内を、受け入れ団体近隣の高校生物部へ送るとよい。
・情報を送る先は、中学生・高校生は総合的な探求学習担当者宛もある。
・大学生は目的が合致していれば参加する。ゼミの担当者へ送る。
・受け入れ団体側で、受け入れ目的（必要性）が明確であることが必要。
・高校の生徒会に繋がった。→事務局から県内高校へ募集・報告など配信して欲しい。
・募集プログラム一覧がカレンダー方式になっていると見やすい。
③拠点のあり方については、会場とオンラインに分かれ、各自の活動紹介もかねて話し合った。
④コア拠点での具体的なアクションとして、事務局より以下の事業の案内を行った。
1）ESD プログラム体験会
・北拠点：浦安（親子初めてハゼ釣り教室：2018 年度 ESD プログラムガイブック掲載）
（浦安三番瀬をもっと知りたい！：2019 年度 ESD プログラムガイドブック掲載）
・南拠点：市原（生命の･水と旅して水マップをつくろう！）2020 年度 ESD ガイドブック掲載）
https://kanpachiba.com/sdgs-esdprogram･･･を参照。
2）ESD の視点を入れた ESD プログラムハンドブックについて
・ガイドブックを基に、よりわかりやすく、体験者の声も入れる等見やすくする。
・2024 年３月完成。
3）ESD 地域リーダー研修会案内
・2024 年２月３日(土)～4 日(日)（1 泊２日）
・大房岬自然の家

以上です。それぞれの団体活動を有意義に広く知ってもらうこと、多様な主体とつながり、SDGs、ESD の人づくりなど次回も検討していきます。

（文責：桑波田 和子）

開催報告

第１回　SDGs・ESD ちば南拠点の会

日時：11 月 28 日（火）10：00～12：00
場所：岩井駅前交流拠点 boccs（ボックス）
南房総市市部 125-13
出席：３団体（５名）　事務局（２名）
内容：
①活動報告
・第２回コア拠点会議開催報告
・SNS 研修会
②協議
・南拠点会議メンバー近況報告及び拠点の活動へ向けて意見を出し合いました。
・出来るところから動き出してみる。
・活動してみてわかったこと。高校生は市域を越えて通学しているので、お互いのまちを繋ぎやすいかも？
・太房岬、ホテル他との連携なども、今後も継続の方向などを視野に入れる。
・次年度へ向けて、集まる場を具体的に進める。
③事務局よりお知らせ

南拠点の会の会議は、2023 年度は初めてとなりました。日程調整もできないまま開催となり、メンバーのご都合がうまく合わず、参加者が少なかったのが残念でした。反省として、今後日程調整を事前にする。また、新しい団体などへも積極的にお誘いするなどしていきます。

（文責：桑波田 和子）

SNS 研修会 「若者が今求めているもの　若者を集める広報の方法」

環境パートナーシップちばでは若者とのコラボや若者の応援に力を入れているところですが、そのための若者とのやり取りをスムーズに進めるため、若者が使っている SNS なるものについて勉強してみようと、11 月 20 日の第 2 回拠点づくり会議の終了後に、いつもなにかとお世話になっている若者の土谷悠太さん（NPO 法人おりがみ）に講師になっていただき、研修会を開催しました。私も常々SNS というものから逃げ回っているのを反省して、張り切って参加しました。

土谷さんが用意してくださった内容は「SNS の使い方」ではなくて、「若者が今求めているもの 若者を集める広報の方法」というものでした。単なるハウツーではなくて、もっと本質的なことを教えていただけたのでした。

- 若者は、手短なことが第一。動画も１分とか 30 秒のショート動画。メールのように長くてわかりにくい情報は求めていない。
- 若者は、自分のやっていることを人に知ってほしい。発信したい。ただ発信するだけでなく、承認欲求がある。「いいね」の反応がすぐに返ってくることが必要。
- 若者との関わり方。若者との連絡手段でおススメなのは、ライン、インスタグラム、メッセンジャー。電話もつながる確率が高い。
- 若者を集めるには、若者に役割を与える（承認欲求）、若者のやりたいことをサポートする（自己実現）。

質疑では、参加者から「今の若者のやり方は結果だけしか伝えない。大事なプロセスの部分が伝えられないのではないか」という問題提起があり、これについては土谷さんも同意。短く伝えることはきっかけ作りで、その次のステップとしてはもっと深く知ってもらうことが必要だ、ということで若者とオトナの意見が一致しました。

（文責：小倉 久子）

【千葉県主催】若者が主役の環境保全活動応援事業「スタートアップ会議」開催報告

令和５年１０月１５日（日）に開催された「若者が主役の環境保全活動アイデアコンテスト」で受賞した、

- 「蘇れ！耕作放棄地　～日本茜に託す私たちの想い～」　（成田日本茜復活チーム(県立成田西陵高校)）
- 「里山活用コミュニティ「グリーンベース」」（学生団体グリーンベース）
- 「地域の特色を活かした自然体験型学習プログラムの画策」（千葉大ＮＥＳＯ）

が受賞の喜びと共に、これからの活動を有意義に、楽しく、また継続して行くためのスタートアップ会議を開催しました。

参加メンバーは、受賞団体、活動するための支援者（団体、専門家、事業者、行政など）です。

会議の内容は①事業の内容の紹介。②活動するにあたり気になる点。③参加者からの質疑や応援メッセージ、などです。

千葉大 NESO では、体験学習プログラムに参加してもらうための工夫、人とのつながりなど意見が出ました。

グリーンベースでは、活動場所の候補地などについて県、事業受託の環パちばとの事前相談をオンラインで行いました。その結果、学生仲間で検討して活動場所が決まりました。会議では、応援団体（おとずれ山の会）から里山活動での注意点、土地の管理者（市原市）から市の取り組みなどを聞き、１月には現地の里山に出向くことなどが決まりました。

成田日本茜復活チームは、母体である成田西陵高校で会議が行われ、授業でできない活動を展開することと再認識しました。４人の高校生が「日本茜」に託す熱い思いやアイデアを聞いて、夢が形になることへ期待が高まりました。

今後の活動が、他の若者団体の良いモデルとして、安全で楽しい活動へ展開することを期待します。皆さまの応援もよろしくお願いします。

（文責：桑波田 和子）

船橋エコカレッジ第２期

船橋エコカレッジは、生物多様性ふなばし戦略の中のリーディングプロジェクトの一つである「生物多様性へ配慮するための仕組みづくり」プロジェクトの主要事業として位置付けられている教育事業です。環境パートナーシップちばでは、令和４年度の第１期から講座の１コマを担当しています。

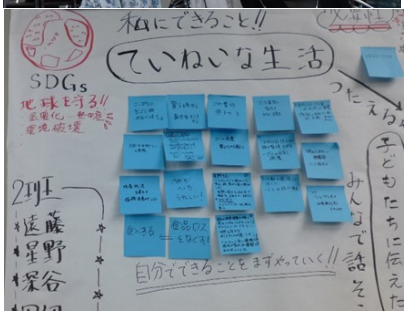
令和５年度は「学ぼう 作ろう つながろう 環境の『わ』」を全体テーマとして、生物多様性に関する取り組みのリーダーや市民団体の後継者などを育成することを目指したカリキュラムになっています。30 人の受講生は、６月から毎月２回、全 20 時間以上の講座やフィールドワークを体験してきました。生物多様性に限らず環境問題全般に関する様々な講義の他、台地や低地の自然を体験するフィールドワークを行っています。

その中で今年の環境パートナーシップちばは、11 月 24 日の「環境保全活動について」のファシリテーターを担当しました。

今回のエコカレッジで学んだ成果を今後の生活や活動の中でどのように生かしてゆくかについて議論し、模造紙にまとめて班ごとに発表していただきました。グループごとの発表では、多様で具体的で実現可能な活動方針が数多く発表されました。

今年は各講座を同じグループで継続的に受講しており、振り返りのグループワークでも、各グループで役割を分担して効率よくワークを進めることができました。

半年近くにわたるこのエコカレッジでの学びが受講生一人一人のこれからの活動の中で自ら考える羅針盤となり、彼ら自身が市内に限らずより幅広い地域での生物多様性の保全を担う中心的な人材に育ってゆくことが期待されます。



（文責：谷合 哲行）

いちはら市民大学【環境コース】環境まちづくりワークショップ

いちはら市民大学【環境コース】は、様々な環境問題について学習し、身近なところからその解決方法を考えるとともに、市民活動団体等で活躍できる力をつけることを目的に、今年で９回目になります。今年も 11 月 21 日と 12 月５日に、当会の桑波田、中村、谷口、小倉の４名がファシリテーターとして参加してきました。

受講生は、環境コースの講座や体験活動で関心を持ったテーマの中から「地球温暖化」「ごみ・リサイクル（3R)」「里山や自然環境の保全」の３つの課題を見つけ、それぞれのグループに分かれて自分たちでできることを掘り下げていきます。私たちはその課題解決のためのワークショップをお手伝いしました。

「地球温暖化」チームは「チョット待て、その買い物で OK か」として、食品ロスの削減に取り組むための行動について意見を出し合いました。計画的な買い物の方法や、買ったものを無駄なく使いきる方法など、今日からできることをやろうという意気込みを感じました。

「3R」のチームは「あなたのいらないものは誰かの宝物」という活動タイトルで、洋服や日用品などの効率的なリサイクルについて具体的に考えました。廃校や公民館などを利用し、無料で提供してもらった品物を必要な人に渡す、地域単位のシステムを作っていこうという活動を提案していました。

「里山や自然環境の保全」チームは「竹林で遊ぼう」。メンバーの中にすでに竹林整備に係わっている方がいて、活動の楽しさや問題点が出たことで、より具体的にやりたいことのイメージがつかめたようでした。

講座終了後は問題を自分事ととらえ、課題解決のための活動に取り組んでほしいと思いました。

（文責：谷口 路代）

まるごみいんばぬまフェス

まるごといんばぬまプロジェクト副代表兼事務局長 久保田隆志

「まるごといんばぬまプロジェクト」は、水質や外来生物のことなどネガティブに発信されがちな印旛沼を、楽しい、美しいなどのポジティブな言葉で広く発信し、より多くの方に親しみを感じていただくことで、様々な取組や課題への関心も持っていただけるよう活動しています。

昨年 11 月 23 日に開催した「まるごみいんばぬまフェス」では、まず、日本まるごとゴミ拾いを主催する「まるごみ JAPAN」とコラボし、海岸漂着ごみの 7～8 割は内陸から出るごみということを意識しながら、印旛沼のほとりでごみ拾いを行いました。「まるごみ JAPAN」から TSUBASA さんが駆けつけてくれたほか、地元の岩渕薬品さんほか多くの企業や団体の方々などが参加してくれ、沼やその先に繋がる河川や海まで思いを馳せながら、楽しくごみを拾いました。

ごみ拾いで沼と心をきれいにした後は、お楽しみの交流会です。私たちが初めて開催したイベントが、今回と同じ印旛沼サンセットヒルズで４年前に開催した「まるごと印旛沼フェス」。前回と違うのは、この活動を通して縁が繋がった皆さんが参加してくれたことです。

印旛沼イメージソング「Home Town」を歌うゆうなみさんとピアノ演奏の益山真理子さん、そして自然界ラッパーOMGさんの素敵なステージ、地元イタリア料理店 Trattoria Noce さんのお料理、長年に渡り印旛沼を撮り続けるラーメンすずきさんの写真、まるごとメンバーによる創作紙芝居と絵本朗読・・・。イベントを彩ったもの全てが、印旛沼一番の魅力の夕焼けに染まり、とても楽しく大切な思い出になりました。

印旛沼のいい面も悪い面もまるごと皆に理解してもらうためには、万人にわかる言葉、受け入れてもらえる言葉で伝えなければなりません。これからも「人を繋ぎ、思いによりそい、未来へ紡ぐ」ことを大切にしながら、わかりやすく取り組んでいきます。

関東エコロジカル・ネットワーク 10 周年記念シンポジウム 報告

2023 年 11 月 23 日（木・祝）に野田市役所で標記シンポジウムがあったので、久しぶりに会場で参加してきました。シンポジウムの副題は、

関東の空にコウノトリとトキが舞う
「環境と治水の好循環」
10 周年のあゆみとこれから

でした。

シンポジウムは、まず開催地の鈴木有野田市長の挨拶の後、涌井史郎さん（関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会会長・東京都市大学特別教授）のミニ講演「関東エコ・ネット 10 年の成果とこれから」がありました。涌井先生のお話は、いつもながらの、１枚のパワーポイントにたくさんの図表を盛り込んでテンポよくお話しされるスタイルで、ついていって理解するのがなかなか大変でした。

この日のメインプログラムは各エリアの子供たちからの質問に涌井先生がやさしく答えるという「聞いてみよう、関東エコネットのこと」というコーナーでした。野田市以外からも、鴻巣市（埼玉県）、小山市（栃木県）、江戸川区（東京都）から７名の小学生が参加して、涌井先生にいろいろな質問を投げかけました。

コウノトリは野田市にとって、どう良いところがあるの？　コウノトリの足輪はなぜつける？という王道の質問から、コウノトリと SDGs とが自分の中で結びつかないのだけど・・・、という非常に本質的な質問にも、涌井先生は汗をかきながら一人ひとりに誠実に答えてくれていました。

第２部のパネルディスカッションでは、コウノトリのサイトの市長２名、３名の学識経験者、国交省河川部長が登壇して、当初の期待以上に 10 年間でコウノトリが増えて、全国に飛翔していることが高く評価されていました。

（文責：小倉 久子）

情報更新と伝達のにない手を地域に

NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット　理事長 鬼沢良子

日々の暮らしの中で「食べたり使ったり」するとすぐごみになってしまう容器包装ですが、分別だけでなくリサイクルされた後、何に生まれ変わるかを知るために「楽しく学ぶ容器包装の３Ｒ」講座を開発、首都圏 13 の自治体と連携して「情報伝達のにない手」育成事業を実施して 10 年になります。

関心のない方にも楽しく学んで実践していただくため、2011 年に容器包装８素材のビンゴクイズを初期の３Ｒ市民リーダーが考案しました。市民リーダーには、それぞれの地域のイベントで活躍していただくほか、毎年 12 月に実施されるエコプロでは、各地のリーダーが集合して3R 推進団体連絡会のブースでクイズを実施しています。

エコプロでは、小学生、中学生が中心になりますが、大人も楽しく参加していて、「知らなかった～、ビンゴになったあ」という声を聞くと皆やりがいを感じます。今年も時間限定にもかかわらず、３日間で 500 名近くの方に参加いただき、当日は各地の市民リーダーが息を合わせ、交代して役割を担うことでの気づきは大きく、また繰り返すことで一気にスキルアップします。

以下は参加した市民リーダーの感想の一部です。

・前半は学生、後半は大人達で、多少言い回しなどを変え、歯切れの良いしゃべりから少し丁寧に詳細も入れ工夫できた・他の市民リーダーさんの間合、声の大きさ、マイクの使い方などが参考になった・本番でないとわからない事が多く、練習、学び等が必要・思うように言葉が出てこないところがあった・子どもたちや大人も新しい発見があるようで、それが嬉しく楽しい。　以上

実践を通じての学びや気づきを大切に、これからも情報伝達のにない手を増やし、高度な資源循環に寄与していきたいと思います。

「アスベストの無害化処理施設の見学」

環境団体 とんがらし座（環境カウンセラー） 小堀 功

【はじめに】

とんがらし座は廃棄物の再資源化やゼロエミッションの廃棄物処理について考え、行動する環境保全団体です。この度、アスベストの無害化処理施設の見学をして来ました。

・日時：2023 年９月 19 日（火）
　　７：00～10：00
・場所：株式会社 最上クリーンセンター
　　（山形県最上郡最上町東法田 928 番地）
・見学者：小堀　功

【廃棄物処理～リサイクル～】

こちらの施設は、投入設備と溶融炉を一体化し、アスベスト等を破砕した後に、高温（1500℃以上）で処理します。無害化された残渣物（溶融スラグ）は、水槽で受けた後に水砕スラグとして回収します。大きな特徴は、東日本初の「環境大臣認定」の無害化処理施設で、なおかつ、東北最大級のリサイクル工程が平行して二つあることです。

１．リサイクル工程の在り方

①マテリアルリサイクル

無害化された水砕スラグは、粒度調整を経て「再生細骨材」として路盤材等にリサイクルされます。

②サーマルリサイクル

焼却する際に発生する熱エネルギーを回収・利用して園芸ハウス内で胡蝶蘭やフルーツトマトの栽培を行っています。

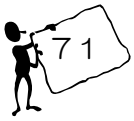
２．環境保全としての遵法確認

焼却スラグ、排ガスの計量値、最終処分の浸透水の分析結果を確認しました。重金属、SOx、NOx、有機塩素系等は、水濁法、大防法、土壌環境の全て基準内で管理されており、問題ありませんでした。

【最後に～今回の見学で得たもの】

今回の見学から、最上クリーンセンターは、「適正処理と再資源化の徹底」、「環境に優しく、公害のない快適な環境」であることを認識しました。これにより、市民環境活動の幅が大きく広がりました。ご対応頂きました最上クリーンセンターの皆様、本当にありがとうございました。感謝致します。

県内の環境保全活動人（団体）紹介　―　71　―
おききしました！　この人・この団体



特定非営利活動法人さざなみ

https://sznm.org

理事長　島田 拓

沿革

NPO 法人さざなみは東京湾埋め立ての最終段階である 1980 年代初頭、習志野市の湾岸で幼少期を過ごした少年たちが 30 年の時を経て、失われた海辺の再生を願い再会、清掃活動をはじめたことから生まれました。

かつて東京湾奥の水辺は広大な干潟で、人と自然が共存し、生命の息吹あふれる豊かな海辺でした。東京湾奥の原風景を肌で感じた最後の世代である私たちが今何かできることはないか、そんな思いから 2020 年春に海辺の清掃活動が始まり、2022 年に法人化された新しい環境 NPO 法人です。

東京湾保全活動

毎月第３日曜日に習志野市の茜浜護岸を中心に清掃活動を行っております。習志野市は東京湾奥では唯一自然護岸や人工海浜の無い都市で、すべての護岸がテトラポットや人口磯、直立護岸となっており、直接水辺に触れることはできません。海辺から離れた人々の心を再び呼び戻そうと、有志の清掃活動が始まりました。2020 年秋には市との交渉の末、現在の回収ゴミ処分のシステムを構築しました。回収されるゴミの量はおそらく近隣でも最大規模で、１回あたり数 100kg に及びます。まもなく 50 回の活動となりますが、ゴミの量は減る気配がありません。

里山保全活動

2021 年頃から東京湾岸保全活動と並行して、富津市の山林および耕作放棄地の復元による里山再生活動（房総再生プロジェクト）に取り組んでおります。除草剤や農薬無散布の自然栽培米の収穫や、落葉広葉樹の生い茂る生命多様性に富んだ森作り、県内で絶滅に瀕する水生生物の保存活動など、さまざまな事業を展開しております。2025 年には生命多様性の具現化と持続可能な社会の実現に向けた環境教育活動の拠点となる「さざなみ農園」の開園を予定しています。

埋立地の歴史を伝える

1970～80 年代にかけて習志野市谷津干潟の保全に尽力した活動家である森田三郎氏が 2021 年 11 月に死去されました。このことは東京湾の海辺を守る人々の長い戦いの歴史において、一つの時代の終焉を意味していました。遠い夏、子供たちは時間を忘れ、干潟で泥だらけになり遊んだのです。何もない広大な埋め立て地の草原で、私たちは夢中で駆け回っていたのです。流木を利用して建てられた小さな小屋で、森田らは私たち地元の子供たちに多くのことを教えました。かつては広大な浅瀬が広がっていたこと、ヘドロにまみれた干潟の残骸の中にも様々な生き物がいること、人間は決して一人では生きていけないこと。海辺は私たちの学びの場でした。

気候変動、プラスチックによる海洋汚染、土壌の消失、各地で絶え間なく続く紛争、貧富の格差、人類はかつてない困難に直面しています。

人が誰かを愛するとき、その人のことを深く知りたいと思うでしょう。自分の街の歴史、さまざまな困難を乗り越えてきた歩みを知らずして、どうしてその街を好きになり、大切に育てていくことができましょう。そして自分の街すら愛せない人が、どうして遠く離れた世界で起こる問題を真剣に見つめることができましょう。

今私たちに何ができるか、何を後世に伝えていけるのか、模索しながら活動を続けてまいります。

1980年代初頭、森田三郎と私たち
何もない埋め立て地の草原に建てられた小屋
（通称「フローネの小屋」にて）

1980年代の
谷津干潟

運営会議報告

１２月度運営会議

12 月 14 日（木）20:00～22:00
会場：オンライン（Zoom）

【報告】
- だより 154 号発送
- 若者が主役の環境活動応援事業
  スタートアップ会議開催 12/12,11/17,12/20
- ふなばしエコカレッジ　11/24
- いちはら市民大学環境コース　11/21
- 地球環境基金事業 コア拠点会議　11/20
- SNS 研修会開催　11/20
- 南拠点の会開催　11/28　　他

【協議】
- だより 155 号
- 若者が主役の環境活動応援事業（委託事業）
- 地球環境基金事業
- 印旛沼環境基金事業
- 市原市環境審議員

１月度運営会議

１月 18 日（木）20:00～22:00
会場：オンライン（Zoom）

【報告】
- SDGs 学生フォーラム in ちば　2/18 開催
- 若者が者役の環境活動応援事業
- 千葉興業銀行打ち合わせ　1/9
  印旛沼イベント 3/16（予備日 3/23）

【協議】
- だより 155 号
- 韓国より訪問　1/22 幕張メッセ
- 印旛沼環境基金報告会　1/23
- 若者が主役の環境活動応援事業
  受賞者報告会　2/18
- 地球環境基金事業
- 千葉市公民館講座（令和６年度）
- 理事会開催（２月予定）
- ユースボランティア
  （GOGO ボランティアチラシ掲載）

お知らせ

千葉県環境学習等に関する交流・協働の場づくり事業
講演会と報告会

日時：2024 年 2 月 18 日（日）　14:00 ～17:00
会場：千葉県教育会館 604 会議室
定員：会場 50 名 オンライン 500 名
参加申し込み（2/16 まで）申し込み先着順
TEL 043-223-4144
e-mail：e-haiki@mz.pref.chiba.lg.jp

第１部　14:00～15:20　露木しいな 講演会
「Z 世代の環境活動家が考える地球の今」
第２部　15:30～17:00　若者が主役の環境保全活動アイデアコンテスト　受賞者活動報告会
主催/問合せ：千葉県環境学習等推進連絡会議
（事務局/千葉県環境生活部循環型社会推進課）
チラシ：64d54cae37c421f76495d6541929bb30.pdf
（環境パートナーシップちば HP に掲載中）

プログラム公開体験会
「ESD 地域リーダープログラムを訪ねて」

日時：2024 年 2 月 25 日（日）8:00～16:30
会場：浦安市三番瀬環境観察館・境川
集合・解散：千葉駅 NTT 8:00～16:30
内容：プログラム「浦安三番瀬をもっと知りたい！」「親子初めてハゼ釣り教室」他
エクスカーション：郷土博物館見学
申込：(2/22 まで）名前・所属団体名を
e-mail: info@kanpachiba.com へ
主催：NPO 法人環境パートナーシップちば
https://kanpachiba.com/
問合せ：「SDGs・ESD をひろげるための“ちば”拠点づくり事業」事務局 090-8116-4633

この事業は「独立行政法人環境再生保全機構
地球環境基金の助成を受けて開催」

「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

お問い合わせ
事務局：〒262-0006　千葉市花見川区横戸台 21-13　特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば
Tel　：　090-8116-4633　　E-mail：info@kanpachiba.com
ホームページ：https://kanpachiba.com/
※会費や会員申し込みなどの情報は上記 ＨＰでご確認ください。